

LAB LETTER

株式会社 デザインラボ
代表取締役 藤原 康孝

第211回 Digital Thailand 2018 見聞録

9月19日から23日までドンムアン空港近くのムアントンタニにあるIMPACT(インパクトエキシビションセンター)にて「Digital Thailand 2018」が開催されました。「Digital Thailand」は、2016年から毎年開催され今回で3回目、当地では大規模なIT展示会です。

今回はこの「Digital Thailand 2018」に合わせて、9月21日に同IMPACT内で、日経BP総研とタイのDEPA(Digital Economy Promotion Agency)共催で「Asia Digital Society Forum in Bangkok」が開催され参加してきました。

主催者の挨拶の後、10:20からタイのデジタル経済社会大臣 Dr.Pichet のスピーチから始まりましたがワイヤレスイヤホンが貸与され、同時通訳によりタイ政府のIT産業への取り組みについての概要説明が行われました。参加者用に300席ほどありましたがいっぱい立ち見も出ていました。

その中の一つのテーマとして、既にバンコクには Software Park という名称のIT企業向けのビルがありますが、今後はシラチャ、プーケット、コンケンに Digital Park という名称のエリアを設け、企業を誘致することです。弊社レムチャバンオフィスから車で10分のところですので、シラチャの Digital Park の進捗状況は注目しています。

この他には、

1. タイ全土75,000市町村全てに30/10Mbpsの「Village Internet」を構築。
2. 身分証明書、免許書などのDigital ID化。
3. タイのアリペイとも言えるスマートフォンとQRコードを利用した電子決済「PromptPay」の普及。などが話題に上がっていました。

主催者のひとつ、DEPAはデジタル経済社会省のもと、タイのデジタル産業への変革と、デジタル技術の導入を推進することを目的に設立された政府機関でコンケン、チェンマイ、プーケットにもオフィスを開設、各地でITセミナーの開催やソフトウェア開発企業へのサポートを行っています。

「Asia Digital Society Forum」の後、IMPACTの大ホールで開催されていた「Digital Thailand 2018」を見て回りました。



タイ政府関連の出店、ローカル銀行、ローカルソフトウェア開発企業を中心として、日本、中国、マレーシアなど近隣諸国毎のパビリオンが国別に出展されていました。JAPAN PAVILION では、トヨタ自動車、NTT、日立、NEC、富士通の出展、中国エリアでは上海の IT 周辺機器の商社とメーカーの出展が主、マレーシアではソフトウェアハウスの出展がメインでした。

「Thailand 4.0」というタイ政府の長期開発政策の中に「ターゲット産業」として「ロボット産業」が上げられていますが、当展示会の中でも、AIS、DELL、タイ国立科学技術開発庁 (NSTDA) などがロボットを展示しており、AIS のロボットは音楽に合わせて踊っていました。



また今回これまで当地で開催された IT 展示会と比べて特徴的であったのは、IT 関連団体主催のブースに SME 向けのソフトウェア開発業者が 1~2 名の小ブースに多数出展していた点です。下記のような団体が出展していました。

1. depa | Accelerator Program x Techsause

“depa”は前述の「Digital Economy Promotion Agency」ですが、スタートアップ企業向けのファンドが用意されています。Depa のブースには下記のような企業が 10 社程度出展していました。

Voxy : <https://voxy.com/> (スマートフォンを利用した英語教育システム)

U Drink I Drive : https://www.udrinkidrive.co.th/udrink_website/index.php?lang=en (スマートフォンで呼び出せる運転代行サービス。料金は 5 キロまで 500 バーツ、20 キロまで 650 バーツなど)

2. TTSA (Thailand Tech Startup Association)

技術者向けのトレーニングコースと PR サポートを提供する団体です。企業会員と個人会員の 2 種類あります。このブースにはスマートフォン上で利用できるレンタカーサービス、クラウドファイル管理サービス、出退勤管理サービス業者などが出展していました。

3. TBA (Thai Blockchain Association)

日本ではビットコインが知られていますが、「仮想通貨」に関わる企業が加入している団体です。本年 2018 年に設立されたばかりの団体です。下記のような企業が出展していました。

Coin Asset : <https://coinasset.co.th/>


Swaple : <https://swaple.io/>


(次回に続く)


DLAB
System Integrator
— □ ×

【業務内容】

1. パソコン・周辺機器などハードウェア、ソフトウェア販売、ネットワーク構築・サポート
2. 会計・生産管理・販売管理システムの販売、開発、サポート
3. インターネットサーバー構築、Web サイト開発、運用管理
4. システムコンサルティング
(社内システム部門として PC などの運用管理、Q&A 対応、システム評価を行います。)

 0-2439-2663~4

 0-2439-2665

 Email : info@dlab.co.th

株式会社 デザインラボ (Design LAB Co., Ltd.) 連絡先: 藤原 康孝 (Yasutaka Fujihara)

LAB LETTER

株式会社 デザインラボ
代表取締役 藤原 康孝

第212回 Digital Thailand 2018 見聞録 (第2回)

前回の続き「Digital Thailand 2018」のレポートです。今回は団体ブースを列記しましたが、Digital Thailand では企業毎のブースがメインになります。また海外企業については単独ブースでの出展と国別のパビリオンがあります。単独ブースでは下記のような企業やグループが出展していました。

1. DELL

DELL 社の取扱製品各種の展示ですが、特に「顔認証」システムに力を入れていました。会場にカメラを取り付け、カメラに写る参加者の顔を自動認識しデータベースとマッチングさせるようなデモを行っていました。警察関係者と思われる制服を着たグループが熱心に担当者ややりとりしていたのが印象的です。

2. Grab

Uber と共に「配車アプリ」の運営企業として世界的に有名です。元はマレーシア人による創業でマレーシアのクアラルンプールが本拠地でしたが、現在はシンガポールに移転しています。2018年3月に Uber 社の東南アジア事業を買収しており、タイでは最もメジャーな配車アプリとなっています。

配車アプリとは、スマホで乗車希望場所と下車希望場所を登録し、クレジットカードによる決済方法により乗車希望場所周辺を走行している Grab に登録したタクシーの運転手から応答が届き、料金や利用条件に承諾すれば、その場所にタクシーが来ます。当地でも通常のタクシーで Grab に対応している車といわゆる白タクの 2 種類あり、いずれか選択できます。(白タクはタイでも違法ですので選択しない方が無難です。)

承諾するとそのタクシーが到着する予定時間やチャットなどにより、例えば乗車希望者の服装の色など詳細の情報や乗降場所のやりとりを行う、かつスマホ上でタクシーの現在位置を逐次確認することができます。乗車後も最短距離から離れ遠回りされるとスマホ上で警告が出たり、スマホから緊急通報が出来る仕組みがあります。ちなみに当地では「Grab Express」という宅配サービスも実施されています。

3. EV

EV、Electric Vehicle つまり電気自動車の展示もありました。会場が大きかったせいも、電気自動車、電気バスの実物展示がありました。電気オートバイは、コンドミニアム購入のおまけ(価格 47,100.THB)となっていたのは面白いところです。電動立ち乗り 2 輪車として有名な「セグウェイ」は、実物に 30m ほど乗れるコースが用意されていました。



タイらしい電動車として「電動トゥクトゥク」もスマホから利用できるシェア自転車と一緒に「スマートシティ」エリアに展示されており、近未来の電動乗り物が一通り揃っていました。

会場が非常に広がったため、様々なイベントも開催されていました。

1) ロボットコンテスト

「STEM Robotics Contest」として、LEGO 社主催による STEM 教育用プログラミングロボットにより右図のような疑似タスクをロボットにより実行し、獲得した点数で競うコンテストです。



「STEM」とは、“Science, Technology, Engineering and Mathematics”の頭文字でアメリカで始まった技術系の人材育成の教育モデルです。

会場には、コンテスト会場だけでなく、「ワークショップ」エリアが設けられ、いわゆるシングルボードコンピュータを使ってロボットを組み立てているチームが 10 チームほどいました。

2) ドローンレース

「Drone Mission」と名付けられた約 50m 角のレース場に様々な障害物が設けられ、指定のルートの通過時間をポイント化して競うレースです。レース結果は下記のサイトに出ています。



<http://www.rcsayoungpilot.com/2018/>

今回の優勝賞金は 5 万バーツだったようですが、世界の有名なレースでは賞金総額が 1 億円を越えるレースもあります。

この他、「Startup Battle Ground」という生活、旅行、農業、食品など 10 分野で IoT を利用して実現可能な新たな仕組みをプレゼンして、アイデアの優劣を競うコンテストもありました。主催は、HUBBA 社 (<http://www.hubbathailand.com/>) で起業家、フリーランサーを集めるコワーキング (Coworking) サービスを運営しており、一般的な企業とは異なるワークスタイルが特徴で、新たなコミュニティーの形態として注目されています。

DLAB
System Integrator
— □ ×

【業務内容】

1. パソコン・周辺機器などハードウェア、ソフトウェア販売、ネットワーク構築・サポート
2. 会計・生産管理・販売管理システムの販売、開発、サポート
3. インターネットサーバー構築、Web サイト開発、運用管理
4. システムコンサルティング
(社内システム部門として PC などの運用管理、Q&A 対応、システム評価を行います。)

0-2439-2663~4

0-2439-2665

Email : info@dlab.co.th

株式会社 デザインラボ (Design LAB Co., Ltd.) 連絡先: 藤原 康孝 (Yasutaka Fujihara)

LAB LETTER

株式会社 デザインラボ
代表取締役 藤原 康孝

第213回 メール同報サービスの利用

一昔前と比べ、昨今メールを送っても宛先に届かないケースが増えています。あまりにもウイルスメール、スパムメール、広告メールが多いため、メールホスティングを運営している会社では、様々な対処方法、例えばブラックリストの作成、参照、受信の際のウイルスチェック等々、できるだけウイルスメール、スパムメールを駆除する仕組みを構築していることがその理由です。

ただその結果、逆にウイルスでもスパムでもないメールが宛先に届かない、ウイルスでもない添付ファイルをウイルスとして検出しメールが送れないなどの事象も相対的に増えています。よくあるケースとして例えば、AMAZON、楽天などのEC企業からのお知らせメール、TG、JAL、ANAなどの航空会社のマイレージ案内、ホテルなど会員メンバーポイントのアップデート情報など、本来受信したいメールまでもブロックされることがあります。

例えば弊社デザインラボが info@dlab.co.th という自社のメールアドレスで1時間に1万件の広告メールを送ると、世界中のメールサーバーやブラックリスト管理システム(RBL: Real-time Blackhole List)上で、スパムメールの発信元として、弊社のドメイン(dlab.co.th)と弊社のメールサーバーのIPアドレスが登録されてしまい、2度と送信できなくなってしまうことでしょう。

これはつまり自社のパソコンがウイルスに感染して、短時間当たり膨大な件数のメールを外部に送信した場合と同じとして取り扱われた結果で、そう言う意味からも企業各社の自らのドメインの信頼性を守るために、セキュリティ対策が必須になるわけです。企業のセキュリティ対策については過去の月報でも記載していますが、今回はこのようなメール送受信の仕組みの中でも、業務上、ある程度短時間に数百、数千、数万単位の宛先にメールを送るような場合、どのような方法があるかについてご案内します。

同報メールを多数に送る必要があるのは新製品のお知らせメールを送りたい製造業、期間限定のディスカウント価格を知らせたい小売業、毎日、毎週、毎月、日報・週報・月報を送りたいメディアやコンサルタントサービス業など、実際には多くの場面で必要とされます。

最近はやりの「RPA」を使えば、メール送信作業を人手で行う代わりにRPA化して、該当のPCの電源を入れておけば最後まで送り続けてくれますのでこれも1つの方法ではあります。ただしメールアドレスが間違っていた場合、そこでRPAが止まってしまう可能性がありますので、メールアドレスが間違っていた場合の仕組みも考えておく必要があります。あるいは送信者側で送信できても、実際には受信者に届いていないケースもよくあるケースですので、なかなか運用に乗せるには難しいところです。

一般的には同報メールを送る場合には、下記のような「メール配信サービス」を利用します。

blaynmail(ブレインメール) : <https://blastmail.jp/>

お名前.com : <https://www.onamae.com/server/mail/mm/>

Benchmark Email(ベンチマークイメール) : <https://www.benchmarkemail.com/jp/>

利用方法は非常に簡単です。自社のドメインを移行するなどの必要なく、例えば(ブレインメール)であれば、まずユーザーIDを登録し、その後、下記のように、①送信者のアドレスを設定、②宛先の登録項目を決める(最低限メールアドレスを登録すれば送信可能)、③宛先のメールアドレスを登録(Excel から一括インポートも可能)、④同報メールの作成(添付ファイルも送信可能)、4つのステップを行うだけで送信できます。



送信も、即時送信、指定時間を決めて送信することができます。料金は宛先の件数により決まります。3,000件の宛先へ送る場合は月額2,000円です。何回でも送信できます。メールの形式もテキスト形式、HTML形式、さらにパソコンでの受信者とスマートフォンでの受信者ではメールの構成を変えた方が見やすいため、それぞれ分けて送信することができます。

また送信側として役に立つ機能として送信に失敗したメールアドレスは画面上で「失敗」として表示され、どの宛先に送ることが出来なかったのかが即確認できること、再設定しない限り次の送信時には再度送ることができないようになっています。

このような配信サービスは一步間違えばスパムメールと見なされ、あっという間にブラックリストに登録されてしまう可能性があります。上記のような配信サービス会社では、単一の送信メールサーバーではなく、多数の送信メールサーバーから送るなどの仕組みで送信を実現しています。30日間試用可能です。

(ご参考まで)

DLAB
System. Information

【業務内容】

1. パソコン・周辺機器などハードウェア、ソフトウェア販売、ネットワーク構築・サポート
2. 会計・生産管理・販売管理システムの販売、開発、サポート
3. インターネットサーバー構築、Webサイト開発、運用管理
4. システムコンサルティング
(社内システム部門としてPCなどの運用管理、Q&A対応、システム評価を行います。)

☎ 0-2439-2663~4 📠 0-2439-2665 📧 Email: info@dlab.co.th

株式会社 デザインラボ(Design LAB Co., Ltd.) 連絡先: 藤原 康孝(Yasutaka Fujihara)

LAB LETTER

株式会社 デザインラボ

代表取締役 藤原 康孝

第214回 WEB サイトにパスワードを掛ける方法

自社の WEB サイトで顧客のサポート用に専用のサイトを設ける、あるいは特定の社員のみアクセスを許可するような場合、下記のような方法でパスワードを掛けることができます。

1. ユーザーID とパスワードをデータベース化して、WEB サイトへアクセスする際に認証する。
2. 「.htaccess」ファイルを利用する。
3. サーバー管理ツールを利用する。

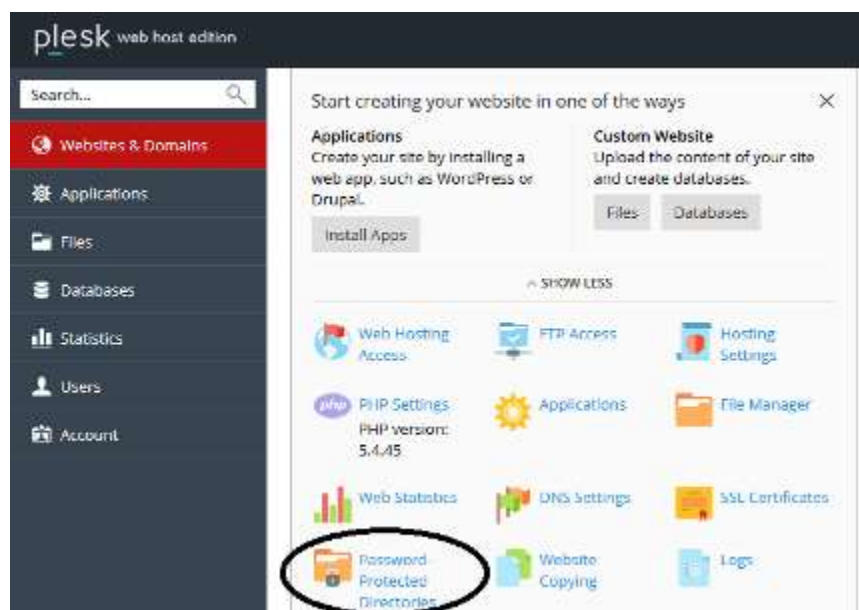
1. のデータベースを利用する方法が一般的ですが、システム担当者でなければなかなか設定が難しいところです。メリットとしてパスワードの有効期限や失敗した回数でロックを掛ける、複数のサイトで共通のID とパスワードが利用できるなど様々な設定が可能です。

2. の「.htaccess」ファイルとは、例えばメモ帳に下記を記載して「.htaccess」ファイル名で WEB サイト上のフォルダに保存し、

```
AuthUserfile /保存するフォルダ名/.htpasswd
AuthGroupfile /dev/null
AuthName "Please enter your ID and password"
AuthType Basic
require valid-user
```

さらに「.htpasswd」ファイルをメモ帳で作り、「id:password」例えば「fujihara:1234」と記載して同じフォルダに保存しておけば、このサイトを開く際に ID とパスワードの入力画面が開き、ID : fujihara、Password : 1234 と入力すると開くことができるようになります。容易にパスワードを設定することができますがセキュリティ的には低いとされています。

3. の「サーバー管理ツール」による方法ですが、WEB サイトを管理するための専用のソフトウェアがあり、「Paralles Plesk（プレスク）」、「cPanel」、「Webmin」というソフトウェアが代表的なものです。今回は「Paralles Plesk」を利用した場合のパスワードの設定方法についてご案内します。



- ① Plesk にログインして前ページ丸印の「Password-Protected Directories」をクリックします。
- ② 「Add Protected Directory」というアイコンが出てきますのでクリックすると「Directory name」を入力する枠が出てきます。ここに例えば右上図のように「/download」と入力して、「OK」をクリックします。
- ③ 次に右下図の Tools 画面を開くと、「Add a User」と「Directory Settings」の 2 つのアイコンが出てきますので、「Add a User」をクリックします。
- ④ ここにこの WEB サイトへアクセスを許可するユーザー ID とパスワードを登録して「OK」をクリックします。

Password protected directories

Create a protected directory under the site

Settings

Directory name *

Title of the protected area

* Required fields

Password protected directories

Protected directory /download_201812 on domain

Tools

Protected directory users

以上で自社のサイト、例えば <http://www.abc.com/download/> を開くと下記のようにパスワード入力画面が表示されるようになり設定完了です。

ユーザー名とパスワードを入力してください

http://www. com がユーザー名とパスワードを要求しています。サイトからのメッセージ:
"Download."

ユーザー名:

パスワード:

本年もお陰様で弊社社員一同無事に過ごすことができました。ありがとうございました。新年も引き続きご指導ご鞭撻お願い申し上げますと共に月報ご購入者皆様の益々のご発展をお祈り申し上げます。ありがとうございました。

DLAB
Design LAB Co., Ltd.

【業務内容】

1. パソコン・周辺機器などハードウェア、ソフトウェア販売、ネットワーク構築・サポート
2. 会計・生産管理・販売管理システムの販売、開発、サポート
3. インターネットサーバー構築、Web サイト開発、運用管理
4. システムコンサルティング
(社内システム部門として PC などの運用管理、Q&A 対応、システム評価を行います。)

0-2439-2663~4 0-2439-2665 Email : info@dlab.co.th

株式会社 デザインラボ (Design LAB Co., Ltd.) 連絡先: 藤原 康孝 (Yasutaka Fujihara)